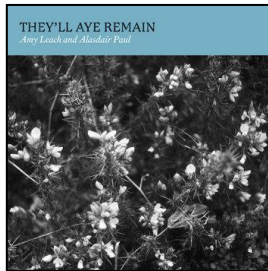


MAIL Order List 2026-#2

(2026年5月31日作成)

www.tambourine-japan.com
email: song@tambourine-japan.com
email: tambour@ya2.so-net.ne.jp



(List 2026-#2 紙版使用表紙ジャケット)
AMY LEACH AND ALASDAIR PAUL/They' ll Aye Remain(Scotland)

ご注文の際、プライス・コードもご記入下さい。

A ¥ 1 9 8 0 (税込み¥2178) B ¥ 2 1 8 0 (税込み¥2398)
C ¥ 2 3 5 0 (税込み¥2585) D ¥ 2 5 8 0 (税込み¥2838) E ¥ 2 8 8 0 (税込み¥3168)
X ¥ 4 8 0 (税込み¥528) Y ¥ 9 8 0 (税込み¥1078) Z ¥ 1 4 8 0 (税込み¥1628)

※発売年が10年以上前の商品は検品してお届けします。

(送料)

※ご注文枚数に関係なく《一律185円》郵送

ただしLPを含む場合は一律660円。

※代金引換送料(郵送): 590円何枚でも)

LPを含む場合は+350円。

注文方法サイト: <http://www.oct-net.ne.jp/tambouri/order.htm>

【ご注文はできるだけ6/16までをお願いします】

にてお願いします。

- ご注文の際、プライス又はプライス・コードをお書き願います。
- お問合せはメールにてお願いします。



庭のカルミアの花まもなく満開

(夏休み前の通販リスト)

*今回今まで取引のなかった Dan Penn や Bobby Charles のアルバムを出している The Last Music Company の音盤と旧録の音盤を配給している会社の音盤を仕入れたため、最近では米国 SSW (シンガー&ソングライター) 系の新入荷分が多めになりました。

*The Last Music Company のオーナーとメールで仕事の話をしていたら、何とオーナーは以前 Topic レコードのオーナーだったとのこと。Topic と言えば、かつてはタムボリン最大の取引先。会社を訪ねたことも。当時のスタッフの話など、メールの内容が旧友っぽくになりました。長く同じ仕事をしていると予期せぬ出逢いがあるものです。

*久し振りに北欧と東欧の音盤を仕入れています。

(分割払い)

*分割払いをご希望の方はお申し出下さい。最初のお支払いは請求額の半額になります。残り半額は 7 月 30 日までで OK です。

USA, Canada, UK & Ireland, England, Scotland, Ireland,
Europe 他, Sale 他, 予約注文,

(ジャケ写掲載分が初入荷と初コメント商品です)

[Blu-ray/USA]



(Poco)

*POCO: Crazy Love - The Ultimate Live

Experience ¥3680 (税込み¥4048)

(Poco の 2004 年ナッシュヴィルの Belcourt Theatre で行ったライブ映像。全 16 曲。インタビューやフォトギャラリーなどのボーナス映像付。2004 年/2025 作。Cleopatra Entertainment)。

[CD/USA {Reissue, Old Recording}]



(Flying Burrito)

(Liv)

(Liv Early Years)

*FLYING BURRITO BROTHERS

:Live In Amsterdam 1972 ¥4280 (税込み¥4708)

(初入荷。Rick Roberts {ヴォーカル、ギター}, Byron Berline {フィドル、ヴォーカル}, Roger Bush {ベース、ヴォーカル}, Alan Munde {バンジョー、エレキギター}, Kenny Wertz {ギター、ヴォーカル}, Eric Dalton {ドラムス}, Don Beck {ペダル・スティール}の珍しい顔ぶれのFlying Burritoの1972年1月14日のライブを収録した二枚組。全29曲 [内ボーナストラック5曲]。全体としてブルーグラス/カントリー寄りのFlying Burritoだが、Rick Robertsの伸びやかなヴォーカルが入ると最高のカントリー・ロックに一変化する。“White Line Fever”, “Wild Horses”そしてRickの十八番“Colorado”等、Rick Roberts 最高！1972年/2024作。Liberation Hall)

*LIVINGSTON TAYLOR:Last Alaska Moon B

(初入荷。James Taylorの弟、Livingston Taylorの2010年作。相変わらず兄のJamesとそっくりな高音の温かみのある声でアメリカン・スタンダード・ポップとでも言うべきサウンドにのって、軽やかにうたう。その温かみと軽やかさは何とも心地よくて魅力的。ぼーっとして聴くのが良し。w. Leland Sklar, Steve Gadd, Vince Gill, Andrea Zonn, Dan Dugmore 他。全12曲。Whistling Dog)

*LIVINGSTON TAYLOR:The Early Years (1970-1977) D

(初入荷。Livingston Taylorの初期のアルバム三枚、“Livingston Taylor” {1970年}から8曲、“Liv” {1971年}から5曲、“Over The Rainbow” {1973年}から6曲の全19曲をピックアップしたコンピレーション・アルバム。特に“Liv”と“Over The Rainbow”はLPで良く聴きました。1970年, 1971年, 1973年/2021作。Whistling Dog)

*DAVID MUNYON:Code Name:Painter D

(David Munyonの最初期、1994年イタリアでのギター弾き語りライブ。彼の唄は感性豊かかつ滋味豊かで、ヴォーカルには静けさのなかに悲喜こもごもな深い味わいがある。加えてギターの演奏は個々に冴え、かつ自身の唄に様々な彩りを添えていて、“Songs with Guitar”スタイルのアルバムとして秀逸。しかも音質と音響がとても良く、アコギの響きと彼独特なヴォーカルがライブ会場の空間に響き渡るかのように聞こえる。未入手のデビュー・アルバム“Code Name:Jumper” {1990年}から6曲を含む全11曲。1994年/2026年。New Shot)

*BOB WOODRUFF:Waysides D

(ロッキン・カントリー・シンガーのBob Woodruffの“Unreleased Tracks & Demos”集。聴くなり、おおお！シャープでエネルギッシュなロッキン・カントリー・サウンド&ハーモニー・ヴォーカルを背に声を振り絞るBobのヴォーカルの何とポジティブでパワフルなこと。唄も音楽も滅茶苦茶カッコいい。カウボーイ・ハットを被ったジャケ写に「カントリー風」を恐れたが、中身はロックの精神とロック志向サウンドに充ちていて恐れは即霧散。Lucinda Williamsとデュエットする“There's Something There”など聴き物だらけ。全12曲。2026作。New Shot)

*ROD PICOTT:Ville Lumiere Promenade D

(Rod Picottは、調べて見ると、本作を除き2001年から自身のレーベルから16枚ものアルバムをリリースしている今も現役のSSW。本作は2005年、Rodがドブロ&ラップ・スティールの名手Matt

Mauch をお伴にしてのフランスはパリでのライブで 21 曲収録。感情を押し殺し、ボソボソとうたう彼の唄、その不思議な物語の世界にジワリジワリと引き込まれる。相方の Matt Mauch のドブロ & ラップ・スティールの渋くもあり泥臭くもある多彩な伴奏とハーモニー・ヴォーカルが滅茶苦茶素晴らしい。「あまりにも知られていないシンガー & ソングライターの至宝の一人」["No Depression]。2025 作。New Shot)

*JACK HARDY: Southern Comfort

D

(Jack Hardy [1947-2011] が 1988 年にイタリア南部のコゼンツァで行ったライブ。Jack Hardy のシンガーとしての気迫は凄みを感じるほど。その上に Todd Scheaffer {ギター、ヴォーカル} と Bymer Rymer {ベース、ヴォーカル} の二人のバックিং・ヴォーカルと伴奏は Jack のしゃがれ声で孤高感ある唄と一体化して、Jack 節の味わいを深めている。全 16 曲中未発表曲 9 曲。「40 年に及ぶツアーの中でも屈指の傑作。まさに彼のエネルギー、信念、そして超越的な芸術的表現の結晶」[New Shot のサイトより]。1988 年/2025 作。New Shot)

*JACK HARDY: Live On Stage In Italy

C

(1993 年に Jack Hardy がイタリア公演を行ったときのライブ。ライブはバンド編成でメンバーは David Hamburger {ドブロ}, Jeff Hardy {ベース、ヴォーカル}, Wendy Beckerman {バックিং・ヴォーカル}。自身のギターに加え David のドブロの伴奏と Wendy のバックিং・ヴォーカル等による音楽は滋味豊かで彼の個性的な唄と一体化して心和む。全 17 曲中 8 曲が未発表曲。1993 年/2023 作。New Shot)

*CALVIN RUSSELL: Equal Love

C

(テキサス・オースティン出身の SSW の Calvin Russell [1948-2011] の 1997 年イタリアでのライブ。本作はバンド編成～Spencer Jarmon {ギター、バックিং・ヴォーカル}, Jim Panek {キーボード}, Scott Garber {ベース、バックিং・ヴォーカル}, Jim Starboard {ドラムス}～で、彼の持ち味である渋みのあるだみ声はバンドの南部寄りのルーツロックと一体化して、凄みがあって圧巻。T. V. Zandt 作の二曲を含む全 16 曲。1997 年/2025 作。New Shot)

*TONY JOE WHITE: The Complete Warner Bros.

Recordings

¥3980 (税込み¥4268)

(二枚組。“Tony Joe White” [1971 年] と “The Train I'm On” [1972 年] と “Homemade Ice Cream” [1973 年] の三枚 + シングル曲 6 曲の全 40 曲。2015 作。Real Gone Music)

*TOM OVANS: When The Dice Began To Roll

C

(ボストンの労働者階級の地区出身で、2000 年前後に素晴らしい Bob Dylan スタイルの SSW アルバムを発表していた Tom Ovans の 1993 年イタリアでのライブ。伴奏者は Doug Lancio {ギター}, Bob Komersmith {ベース}, Lou Ann Bardash {ヴォーカル。Bob Dylan 風のだみ声とアコギ、スライド・ギター、ハーモニカの伴奏と Lou Ann Bardash のソウルフルなハーモニー・ヴォーカルは、初期 Bob Dylan 風のプリミティヴというかフォーク・ブルース色の濃いフォークだが、その味わいは Dylan より濃密。ルーツ志向であり、かつ稀有な個性派 SSW だ。全 21 曲。2025 作。New Shot)

*JAMES TALLEY: Live From The Vaults

C

(オクラホマのタルサ出身の SSW、James Talley の 2002 年イタリア

でのライブ。伴奏者は Dave Pomeroy {ベース}, Mike Noble {エレキギター}, Gregg Thomas {ドラムス}。Woody Guthrie 作 6 曲と J. Talley の自作 5 曲の全 11 曲。バンド編成だが、バンドは補助的伴奏で全編ギター弾き語りの味わい。Woody Guthrie/Bob Dylan 直系のプリミティブなフォークやブルースに根付いた彼特有の滋味豊かでいぶし銀の唄は本ライブで最高潮。2025 作。New Shot)

*JEFF BLACK: Bless My Soul / Live in Italy C

(1996 年イタリアでのギター弾き語りライブ。ナッシュビルを拠点に活動する SSW の Jeff Black のアルバムを聴くのはおそらく彼の 3 枚目の "Tin Lily" {2005 年作} 以来。ギターの弾き語りであらう誠実な彼の唄を聴くと「昔は良い SSW がいたなあ」とつくづく思ってしまう。彼の唄の真っ直ぐさと清々しさに心洗われる。「Jeff Black はレナード・コーエンのバリトン瞑想とタウンズ・ヴァン・ザントのルーツ方言を持つ吟遊詩人」{レコード会

*SAMMY WALKER: Days I Left Behind C

(1986 年、Sammy Walker のイタリアでのギター弾き語りライブ。全 19 曲。化粧なし、スツピンの Sammy Walker ソング。ギターをお伴にし、Sammy Walker 調であらう彼の唄は優しく耳に心地よい。1986 年/2024 作。New Shot)

*GUTHRIE THOMAS: Live On Stage C

(1993 年、Guthrie Thomas のイタリアでの弾き語りのライブ。全 11 曲。彼の誠実な唄が静寂の中、生き生きと収録されていて、ギター弾き語りフォーク・シンガー/SSW としての彼本来の魅力が 100%+α 味わえるライブ・アルバム。1993 年/2023 作。New Shot)

[LP/USA {Singer & Songwriter}]

*KASSI VALAZZA: From Newman Street ¥4780 (税込み ¥5258)

(注目の女性 SSW、Kassi Valazza の待望の三枚目。No Depression 誌は本作について「上品で控えめなフォーク調で、主に Joni Mitchell を想起させる」と表現。1970 年代の陰影のある良質の女性 SSW アルバムを聴く感触。名盤誕生。2025 作。Fluff And Gravy)

*MICHAEL HURLEY: Sweetkorn ¥3580 (税込み ¥3938)

(2025 年 3 月 31 日にコンサートからの帰宅時に倒れ、翌日 4 月 1 日に急逝した Michael Hurley のラスト・アルバム。本作は 2002 年に CD でリリースされた "Sweetkorn" からの 7 曲をリメイクし、新曲 1 曲を加えて LP 化したもの。Michael Hurley のヴォーカルと彼が爪弾くギターやバンジョーの音色は彼の悠々自適な個性が正に悠々と表出されていて、これぞ Michael Hurley! といった趣き。ジャケットもディスクも文字が手書きなのも気分ホッコリ。2023 作。Mississippi)

*GUY CLARK: Dublin Blues-30th Anniversary Edition ¥4780 (税込み ¥5258)

(1995 年発売 "Dublin Blues" の 30 周年記念盤。未発表曲 "Once More With Caution" {Emmylou Harris と Verlon Thompson がハーモニー・ヴォーカル} のボーナス・トラック付。1995 年/2025 作。Compass)

[CD/USA {Folk, Rock} 系]



(Dan Penn)

(Gulftone Recordings 2 CD set)

(Dirk Powell)

*DAN PENN:Smoke Filled Room

D

(Dan Penn の新作はデモ音源集。聴くときはデモ音源を忘れた方が
良い。本作のデモ音源の多くは Dan Penn が生涯の友と敬愛する
キーボード奏者の Carson Whitsett {ほとんどの曲で伴奏} と
シンガーの Bucky Lindsey {7 曲目の Bucky の曲 "Crazy Ol' Girl"
では Dan Penn とデュエット} との交流から生まれたもの。
曲は全てキーボードやピアノの伴奏が中心で、その他の楽器は
ギターとドラムスが数曲で味付け程度に加わっている。本作で
の Dan Penn はまるでゴスペルでもうたうかのように真摯に唄を
うたうことに徹していて、結果的に故人となってしまった二人
の霊に捧げるかのような雰囲気のアльバムになっている。つま
り Dan Penn が本作に込めた思いが本作に乗り移ったかよう
なアルバムになっている。心に響く全 11 曲。2026 作。The Last
Music Co)

*BUCKY LINDSEY & LISA BEST

:The Gulftone Recordings ¥3180(税込み¥3498)

(Dan Penn がプロデュースを手がけた Bucky Lindsay の 2002 年
作 "Back Bay Blues" {全 12 曲} と Lisa Best の 2005 年作 "Plain
Jane In A Mustang" {全 12 曲} の二枚組セット。前者は Dan Penn,
Carson Whitsett, Bucky {Hoy} Lindsey の共作曲等、ディープな
南部音楽フィーリング豊かな音楽を創作。相当な実力派だ。
後者は Dan Penn と Bucky Lindsay の共作曲等、南部ロック寄り
の SSW アルバムを創作。Bonnie Raitt や Maria Muldaur 風な感じ
も。w. Dan Penn, Spooner Oldham, Bucky Lindsey, Carson
Whitsett, Lonnie Mack 他。2002 年, 2005 年/2026 作。Gulftone/
Last Music Co)

*DIRK POWELL:Wake

D

(ヴェテラン・フィドル&バンジョー奏者で SSW の Dirk Powell
の新作。もう長い間聴いてなかった Dirk Powell。聴いて驚いた。
もの凄く魅力的な SSW に成長！アメリカの白人系ルーツ・ミュー
ジックの侘び寂び感のある音楽からロック調まで多様な音楽を
柔軟に創作した上で、彼の唄は柔らかな感性全開で人間味があ
る。アルバム・タイトルの "Wake" には目覚めと通夜の意味がある
が、人生の悲喜交々を Dirk Powell は回想するようにうたってい
て、心に響く。ゲスト:Rhiannon Giddens, Darrell Scott, Kai
Welch, Amelia Powell, Sophie Powell 他。2026 作。Last Music Co)

*BILL KIRCHEN:Cat Out Of The Bag

D

(Commander Cody & His Lost Planet Airmen へのメンバーだっ
た SSW でギタリストの Bill Kirchen の新作。「激しい雨が降る」
時代の Dylan のようなアルバム・タイトル曲で始まる本作。いや
はやこの御仁、ブギウギ、ジャズ、ジャンプ・ブルース、ウエスタ
ンス・ウィング、カントリー、フォークなど、様々なアメリカン・

ミュージックをまぜこぜにして、メチャゴ機嫌なアメリカン・ロックを体現。音楽の引き出しがいっぱいあって、音楽をどう料理するか楽しむかのよう。唄も音楽も凄くポジティブ。アメリカン・ロック界の鬼才で天才。w. Austin de Lone, Jimmie Dale Gilmore, Rick Richard, Jack Saunders, Floyd Domino 他。2026 作。Last Music Co)



(Jeffrey Martin)

(Alena Diane)

(Greazy Alice)

(Nils Lofgren)

*JEFFREY MARTIN

: Alive July 25, 2025 ¥3480 (税込み¥3828)

(当店利用者には説明不要の SSW, Jeffrey Martin の二枚組ライブ盤。過去 4 枚のアルバムからの曲に未発表曲と新曲それに Neil Young 作“Out On The Weekend”{“Harvest”の一曲目収録}を加えた全 23 トラック {18 曲}。ギターの弾き語りによる Jeffrey 節は最高潮。Jeffrey 節に酔う中、もの悲しい“Wellspring”に続き 16 トラック目で懐かしい唄が耳に飛び込む。前述の“Out On The Weekend”。前曲のもの悲しさの余韻を残しつつ、やや張り上げ気味でうたう Martin の唄が実に味わい深い。これを聴くだけでも聴く価値がある。最後の曲“There Is A Treasure”は、一部の人の傲慢さと虚栄心が人生や美しい地球の素晴らしさなどを見えなくさせているという悲しげな唄だが、この曲を Martin は「ドナルド・トランプが何も知らないことについての曲」と紹介。どの曲も静かに心に刺さる。2026 作。Fluff And Gravy)

*ALENA DIANE: Who's Keeping Time?

D

(祖父母の人形や古い写真や絵画や骨董品のあるヴィクトリア朝の自宅屋根裏部屋ですべての曲を作曲し、音楽仲間と一緒にレコーディングしたという SSW, Alena の新作。若い頃から Karen Dalton 風の渋い唄は格別だったが、本作ではレイドバックというかりラックスしていて、唄が自然体で伸びやか。おまけにバンドのロックは自然体で何とも心地よい。3 曲目に Karen Dalton の名盤と同名の“In My Own Time”という自作曲が収録されているが、Karen Dalton のそれとは味わいは異なるものの、ルーツ志向の、独自の素の味わいでは通じ合う。聴くほどに味わいが増す。ちなみに本作のブックレットの最後に「Michael Hurley {1941-2025} を偲んで」と記されていて、6 曲目“Spring Is A Fine Time”では Michael Hurley の Voice Mail”が曲の始まりに収められている。アルバムを通して、M. Hurley にも通じる心地よさと緩さが感じられる。2026 作。Fluff And Gravy)

*GREAZY ALICE: As Times Goes By

D

(何ですか、このバンド！リード・ヴォーカル&ギターのアレックス・ピャノヴィッチとハーモニー・ヴォーカルのジョー・モリス嬢にドラムスのリー・ガルシアとベースのウィル・レポホルツの四人編成だが、このデジタルの時代男女二人のヴォーカルもドラムスもベースもとにかくノホーンとして緩い。寝そべてポケーッと聴いていた

くなるような音楽。よくもこんなアルバムを……。いやいや、その逆で、こんなに時代遅れの、抱きしめたくなるようなほんわかアルバムをよくぞ作ってくれた、と感謝。Alex の気の抜けたような唄と心地よい風のような Jo のヴォーカル……。聴けば聴くほど病みつき。2026 作。Loose)

*NILS LOFGREN:Mountains

D

(初入荷。信じられないでしょうが、滅茶苦茶良い。Nil Lofgren の不屈のヴォーカルとメチャカッコいいエレキギターとズシンと来る米国ロック。「ここに Nils Lofgren あり！」の Nils Lofgren 魂全開のヴォーカルとロック。Neil Young や David Crosby や Ringo Starr とのデュエットもあるが、Ringo Starr は聴き取りが難しい。ゲスト: Ring Starr {ドラムス}, Andy Newmark, Ron Carter, Cindy Mizelle, Howard Gospel Choir。2023 作。Cattle Track Road)

*MIKE DELEVANTE:September Days

D

(The Delevantes の Bob と Mike 兄弟の Mike の最新作。リッケンバッカー 12 弦の輝くサウンドをフィーチャーした Byrds 風フォーク・ロックと、高齢のはずなのに青春まっただ中の明るさと陰りと甘ずっぱさのある Mike のヴォーカル。Roger McGuinn, Byrds そして Every Brothers ファンはノックアウト間違いなしの胸キュンのフォーク・ロック。それらのファンそして西海岸ロック・ファンにとって最高の若返り剤！2026 作。New Shot)

*BILLY JOE SHAVER:Salt Of The Earth

Z

(発掘 CD。テキサス出身の SSW でかつてアウトロー・カントリーの SSW で名を馳せた Billy Joe Shaver の 6 枚目。Billy Joe の息子がギタリストの Eddy Shaver との共同プロデュースによる本作は、Billy の円熟の渋いヴォーカルが味わい深いフォークと Eddy のエレキギターが光るルーツ・ロックが混在。曲数で多めのルーツ・ロック・スタイルでのアウトロー Billy の唄は気概十分。テックスメックス調、ブルース調、カントリー・ロック調等 Billy は息子との共働で若返り。1987 年/2000 作。Sony Music/Lucky Dog)

*RANDY BURNES:The Simple Things

A

(発掘 CD。“Evening Of The Magician”{1968 年作}や“Song For An Uncertain Lady”{1971 年作}等の SSW アルバムの名盤をリリースした Randy Burns の 2008 年作。タイトルから抱くイメージは忘れた方が良く。齢を重ねてもなお、彼の 1970 年代など過去の思い出に浸るタイプの{本人の言葉を借りれば、生き生きする}唄の数々{“Song For An Uncertain Lady”収録の“Autumn On Your Mind”の再演もある}は悩み多き青年時代と同じように神経質そうで情感豊か。声も昔のように小刻みにヴィブラートがかかって面影が有るし、不思議な気分を襲われる。クレジットは記されていないので、参加ミュージシャンについては不明だが、ギターの弾き語り風を中心にロック調まで幅広く、どの唄も Randy Burns らしさに充ちている。全 12 曲。CD-R。自主制作)

*GARY P. NUNN:It's A Texas Thing

Z

(発掘 CD。Jerry Jeff Walker の“Lost Gonzo Band”出身のテキサスのシンガーの Gary P. Nunn の 2000 年作。オリジナルなテキサス・ミュージックの創作を旗印に制作された本作。テックスメックス、カントリー、カントリー・ロック、ホンキートンク、スウィ

ッグ・ジャズ等の音楽をこった煮した音楽は紛れもなくテキサス・ミュージックで、その味わいは濃厚。そして音楽は陽気で朗らか。西海岸カントリー・ロック風なコーラスも最高。主役の Gary のヴォーカルが有頂天というかノリノリというかこれまたメチャ最高。Maines Brothers の Lloyd Maines のプロデュースの手腕もお見事！終始テキサス臭濃厚で極楽気分。昔は良いのが当たり前に多かった。2000 作。Campfire)

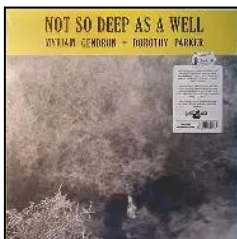
*LARRY JON WILSON: Larry Jon Wilson C
(今年になって知った Larry Jon Wilson が 2009 年作。メキシコ湾を望むコンドミニアムの 15 階の部屋で、Larry Jon のギター弾き語りのみで 20 曲収録したという。これが滅茶苦茶素晴らしい。曲目は自作曲 6 曲に Bob Dylan, Paul Siebel, Willie Nelson, Mickey Newbury {2 曲}, Dave Loggins {2 曲} のナムバー等。ギターを爪弾き、低音のズンと来る声でうたう彼の唄は、リラックスしていて、枯淡の深い味わいがある。2009 作。Drag City)

*LIV GREENE: Deep Feeler C
(「このアルバムは完全に自伝的です」と言うライブ録音の本作。若き女性 SSW の Liv Greene は Emmylou Harris や Kate Wolf や Gillian Welch 等の米国の女性 SSW の伝統を受け継ぎ、見事に米国フォーク・スタイルの美しい SSW アルバムを創作。唄それぞれに心が宿っていて、彼女の情感が裏返るヴォーカルで自然に生み出されている。全てが美味。2024 作。Free Dirt)

*JASON ISBELL AND THE 400 UNIT
: Live From The Ryman. Vol. 2 2890 (税込み¥3179)
(二枚組。アラバマ出身の SSW の Jason Isbell と彼のバンドによるライブ・アルバム。滅茶苦茶かつこい西海岸ロック・スタイルのルーツ・ロック。2024 作。Thirty Tigers)

*VIV & RILEY: Imaginary People C
(Viv & Riley はマルチ楽器奏者で SSW の Vivian Leva と同じくマルチ楽器奏者でシンガーの Riley Calcagno の二人とも 20 代半ば。二人は古いバラッドや伝統的な物語をリメイク等して、米国トラッド&フォークを超えた独自の新感覚の音楽を生き活きと創作。2023 作。Free Dirt)

[CD/CANADA]



(Myriam Gendron)

*MYRIAM GENDRON: Not So Deep As A Well D
(当店初入荷。モントリオールの女性 SSW、Myriam Gendron の 2014 年作。「入手困難だったこのアルバムに同時期に録音された 2 曲を追加収録し、さらに充実させた」という 2023 年の再発盤。モントリオールの書店で見つけた Dorothy Parker の詩に共感し、Myriam がギターで弾き語りして淡々とうたったアルバムだが、その淡々さというか、ひっそりとした唄の雰囲気たまらなく心

に沁みってくる。録音が自宅アパートの「宅録」というのが逆に功を奏した感じだ。1970年代 SSW 名盤クラス。2014年/2023作。Basin Rock)

- *RAY MATERICK:Life And Times A
(発掘CD。Warner時代{1974-1976年}と自主制作時代{1998-2003年}の音源からの二枚組。シングル盤ヒット曲“Emily”や初CD化曲2曲を含む全24曲。2003作。Warner Music Canada)

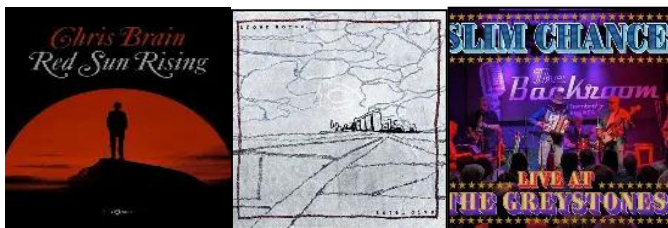
[CD/CANADA {Trad}]

- *MATTHEW BYRNE:Horison Lines D
(“Stealing Time”が大好評のニューファンドランドのトラッド・シンガーの Matthew Byrne の2017年作。イングランド屈指の演奏家との共演で英国で収録された“Stealing Time”も素晴らしかったが、それより8年も前に制作された本作も音楽はイングランドの質の良いトラッド風で、同様に素晴らしく、Matthewのぬくもりのあるシンギングと相まって、心に響くフォーク&トラッド・アルバムとして結実している。Matthew自身が爪弾くギターも英国トラッド調でキラリ光っている。サイン入り。2017作。Matthew Burn)

[CD+DVD/BITAIN (SSW系)]

- ※DVDは国内プレイヤーで再生可能。
*JOHN MARTYN:Live At Rockpalast 1978 E
(1978年のドイツの音楽番組“Rockpalast”での John Martyn の白熱のギター弾き語りライブ。シンガーとしてもギター奏者としても最も脂がのっていた時代のライブで徹頭徹尾エネルギー。1989年録音のボーナス・トラック“Look At That Girl”を含む全12曲。DVDは1時間13分。耳と目でお楽しみ下さい。1978年/1989年/2024作。MIG)

[CD/BRITAIN&IRELAND (SSW系)]



(Chris Brain)

(Brown Horse)

(Slim Chance)

- *CHRIS BRAIN:Red Sun Rising D
(Chris Brainの四枚目。ぼくがコメント紹介する前に当店としては記録的な販売数。しかも皆さんから「素晴らしかった」の声。僕なりに何が素晴らしいかと言えば、Nick Drake風を感じられていた彼の唄がすっかり彼のオリジナリティーになっていること。彼が澄んだ眼差しで夢想して作る唄がごく自然で穏やかなこと。本作ではギター演奏にこだわりたかったと、本人も言っていたが、細やかなギターの音色の連なりが、アルバム全体をきらめくものにしている。そのきらめき感はその夢想的な唄と響き合っている。まさか過去の三作を超えるアルバムを拜めるとは思ってもみなかった。見開きジャケットを開けば、“Red Sun Rising”の風景写真。2026作。Big Sun)

「収録曲は日の出を眺めたり、地平線を見渡したりといった人生における繰り返しの儀式に焦点を当てつつ、私たち一人ひとりの人生を形成する複雑さにも触れています」{Chris Brain}
※歌詞の対訳+各曲のギターチューニングをプリントして差し上げます{Chris Brainの許諾済み}。

*BROWN HORSE:Total Dive

D

(見開きジャケットを開けば、内ジャケットもブックレットのタイプライター風文字も茶系色一色。Patrick Turner{ヴォーカル、ギター}, Nyle Holihan{ギター、ベース他}, Emma Tovell{ラップ&ペダル・スティール他}, Rowan Braham{オルガン、ピアノ}にドラムスの Ben Rodwell とバックিং・ヴォーカルの Neve Cariad を加えた米国カントリー&ルーツロック風バンド“Brown Horse”の新作で三枚目。彼らはさらにスケールを増して、Patrickの微妙に揺れるヴォーカルは絶好調だし、Neil Young with Crazy Horse 風?に荒削りで重厚なロックも絶好調。Patrickのヴォーカルはもちろんのこと、スティール・ギターの豊かな音色にファズ・ギターそれにタイトなドラムス等は快感。2026 作。Loose)

*SLIM CHANCE:Live At The Greystones

D

(Slim Chance が 50 年前に Ronnie Lane の“Passing Show”と同じルートを辿った 2023 年の春のツアー中に収録されたというライブ・アルバム。Slim Chance の他のアルバムは Slim Chance から仕入れていたが、本作は取引のなかったレーベルから発売されていたので未入手だった。ようやく入手。メンバーは Charlie Hart, Steve Simpson, Steve Bingham のコア・メンバーに Brendan O' Neill{ドラムス}, Geraint Watkins{ピアノ}, Frank Mead{サクソックス}が参加。Ronnie Lane & Slim Chance は二流センスの英国ロックと称されたが、Slim Chance はその路線を緩くしたたかにキープ。Ronnie Lane 時代の曲を含む 120% Slim Chanc 印のライブ。ラストは“Goodn Night Irene”で幕。全 12 曲。2024 作。Last Music Co)

*ANNA McLUCKIE:The Little Winters

E

(エディンバラ生まれの女性 SSW でクラルサツハ{小型ハープ}奏者、Anna McLuckie の畏るべきフォーク・アルバム。三つ折りジャケットを開けば、どこもかしこもブラックベリー盛り沢山なティー・タイム?の写真。本作の素晴らしさはひと言では無理。無理なものをひと言で言えば「トラッドと英米フォークの栄養分を吸収・消化してオリジナルなフォークを実に軽やかに創作」。所々での鳥のさえずりのようなヴォーカルも魅力的だが、曲調に即した、伝統的奏法を超えたクラルサツハの伴奏も見事だし、ゲスト・ミュージシャン三人によるチェロ、ダブルベース、バンジョーの音色も実に活きている。2026 作。Hudson)

*SIMON HAWORTH:Taking Routes

A

(発掘 CD。Jez Lowe の Bad Pennies のメンバーでもある SSW でギター奏者の Simon Haworth の 2003 年作。唄もアコギの音色も英国の香りに充ちたブリティッシュ・フォークの逸品。w. Steve Lawrence, Andy May{ノーサンブリアン・パイプの音色が Good}, Rachel Unthank 他。「美しく切ないメロディーと物語は彼が深く愛するノーサンバーランド/カンブリアの田園地帯からインスピレーションを得ている。彼の唄に登場する人々や風景はまる

で広大なスクリーンに映し出されるかのよう。完成度の高いアルバム。今年最高のリリースのひとつ」[Living Tradition]。Fellside)

*LEE COLLINSON:Breathless

A

(発掘CD。ロックバンドのギタリストからブリティッシュ・フォークのギタリストに転向し、BBC Radioの“Young Tradition”賞に二度ノミネート。Keith Hancock BandにMartin Carthyの後釜で加入したという経歴のギタリスト&シンガー、Lee Collinsonの2001年の三枚目。60年代Bert&John+独自スタイルのフォーク・ギターを響きよくかき鳴らし、正統派ブリティッシュ・フォーク・シンガーらしい味わいのあるヴォーカルでトラッドやTom Waits等のSSWの唄をうたう一方、全10曲中三曲で米国南部音楽風なロック寄りの音楽を創作。Chama)

*NIALL McCABE:Stranger

D

(メイヨー沖のクレア島出身のSSWのNiall McCabe。本作は彼の二作目。アイルランド出身のSSWとしては近年ではピカー。Paul BradyやVan Morrisonのヴォーカルのニュアンスを保持した彼のヴォーカルはすこぶる魅力的な上に、島の生活を反映した唄の数々は、島の空気感とともに感情移入が豊かで、深く心に響く。加えてプロデューサーのSean Óg Grahamの、Niallのギター弾き語りにはペダルスティールを織り交ぜながらフィドル、アコ、パイプ等と調和を図った音作りとトラッド、フォーク、ロック混在の音作りは見事で、Niallのシンガー&ソングライターとしての類い稀な才能を見事な手腕で際立たせている。2025年フォーク/SSW系アルバムのベスト級。2025作。Niall McCabe)

*RALPH McTELL AND WIZZ JONES>About Time

A

(2016作。Leola Music)

*WIZZ JONES, PETE BERRYMAN & SIMEON JONES

:Come What May(2017作。Riverboat)

A

*THOM ASHWORTH:Head Canon

A

(Folk Radioは「現代のMartin Carthy」と絶賛するイングランドのトラッド・シンガーのThom Ashworthの2019年作。トラッドの名曲“High Germany”で幕開けする本作は、Thomの揺るぎないシンギング、それも荒野に立ち、遙か彼方に向かってシンギングするかのような見事なシンギングに骨抜きにされる。渋いフィドルの伴奏であろうが、無伴奏であろうが、またフォークロック調であろうが縦横無尽。Thom Ashworth)

*IAIN MATTHEWS & AD VANDERVEEN

:Greetings From Grolloo

C

(2003年3月1日、Iain MatthewsとオランダのSSWのAd Vanderveenの共演ライブ。Iain Matthewsの音楽はSSWの原点に戻ったかのような、ギターの弾き語りによる素直な唄ばかり。Ric Sandersが二曲で飛び入り共演。2003年/2024作。Radz)

[CD/FAIRPORT&FRIENDS]



(Dave Whetstone)

*DAVE WHETSTONE:Winding To You B

(元 Albion Band のアコ奏者の Dave Whetstone が Albion の仲間やその仲間の仲間と制作したいわば Albion Band & Friends による新作。本作誕生のきっかけになったのは 2025 年 4 月 18 日に行われた Ashley Hutchings の 80 歳の誕生日記念ライブ。舞台裏では再会の喜びにあふれ、本作の種が蒔かれたという。参加したミュージシャンは Polly Bolton, Cathy Lesurf, Simon Nicol, Dave Mattacks, John Tams, Graeme Taylor, Benji Kirkpatrick, Michael Gregory, Blair Dunlop, Judy Dunlop, Peter Bullock, Martin Brinsford, John Shepherd. 演奏の主体は D. Whetstone のダンサブルなアコと Albion Band, Home Service, Gryphon のギタリストの Graeme Taylor の多彩なエレキ&アコギ。その上に名うてのヴェテラン達によるフォーク・ロックの王道的演奏が組み合わさる。ヴォーカルを取るのは Polly Bolton, Cathy Lesurf, Judy Dunlop, Benji Kirkpatrick, Jon Tams {いぶし銀の味わい}。イングランドのダンス・バンドの音楽とフォーク・ロックの旨みが伸びやかに創出されている。まるで同窓会に参加した気分。懐かしくもあり、楽しくもしくもある。2026 作。Talking Elephant)

*RALPH McTELL & DAVE PEGG:The Old Pals Act E

(Ralph McTell のレコーディング等を通じて 50 年以上友人同士の Ralph McTell と Fairport の Dave Pegg のデュオによるライブ・アルバム。全 15 曲中 Dylan の "One Too Many Mornings" と Woody Guthrie の "Pretty Boy Floyd" 以外は R. McTell の曲。R. McTell の声量は衰え知らずで、彼特有の抒情も不変。むしろ彼の歌心と唄の素の味わいとがじっくり味わえる感じだ。観客の拍手もあたたかい。至福のライブ。2025 作。Matty Grooves) ※この商品は封(シュリンクラップ)なし。

*FAIRPORT CONVENTION:A Live Recording - UK Tour October 2023 D

(2000 枚限定盤。Chris Leslie {収録時 68 歳}, Dave Pegg {77 歳}, Ric Sanders {71 歳}, Simon Nicol {72 歳} から成る高齢者バンド Fairport のアコースティック・ライブ。Crosby Stills & Nash を彷彿させるさわやかハーモニーといい、軽快な唄といい、ダンサブルな軽快サウンドといい、その若々しく爽やかな音楽に気分爽快。全 17 曲。2024 作。Matty Grooves) ※この商品は封(シュリンクラップ)なし。

*ANNA RYDER:Pockets On Fire A

(Anna Ryder は感性豊かで個性的な女性 SSW。バックを務めるのは Fairport Convention {Dave Pegg, Gerry Conway, Simon Nicol, Ric Sanders, Chris Leslie, Gerry Conway} の面々他。Produced by Dave Pegg, Nark Tucker and Anna Ryder. 1999 作。Woodworm)

- *DAVID CARROLL AND FRIENDS:Bold Reynold B
 (David Carroll と Fairport&Gryphon の選抜メンバーとによる David Carroll & Friends の一枚目。David Carroll の心優しい人間性と Fairport や Gryphon の音楽への愛が詰まった心豊かなフォーク・ロック。2023 作。Talking Elephant)
- *SIMON NICOL & RIC SANDERS:Greetings From Grollo B
 (2003 年 3 月 1 日オランダでのライブ。Ric Sanders のフィドルの演奏が付いた Simon Nicol のギター弾き語りの曲を中心に Ric Sanders のフィドルと Ric Sanders のギターのジャンルを超えたデュエット曲を加えた構成。2003 年/2024 作。Radz)
- *SDP:Vol Two B
 (SDP [Sandy Denny Project] は Tradarr の Marion Fleetwood, Gemma Shirley, PJ Wright, Mark Stevens+Sally Barker [再結成 Fotheringay, Poozies] のスーパー・フォーク・ロック・バンド。本作は二枚目で、Sandy Denny ソングを Tradarr 流に新たな英国フォーク・ロックで創作したもの。Fairport, Fotheringay ファン必聴！2024 作。SDP)
- *TRADARR:Cautionary Tales B
 (Sandy Denny Project の Marion Fleetwood, Gemma Shirley, PJ Wright, Mark Stevens に Gregg Cave, Guy Fletcher, Brendan O'Neill の七人組フォーク・ロック・バンド“Tradarr”の 2015 年のデビュー・アルバム。彼らが体現するのは“Liege & Lief”をベースにした今の時代のオリジナルな英国フォーク・ロック。ゲスト：Dave Pegg, Chris Leslie, Rick Sanders, Jerry Donahue。Hedge Of Sound)

[CD BOOK/ENGLAND]



(Emily Portman)

- *EMILY PORTMAN: Dominion of Spells ¥5880 (税込み ¥6380)
 (英国屈指の女性フォーク/トラッド・シンガー、Emily Portman の待望の新作は CD 付き豪華ハードカバー本 [B5 判、560g、厚み 1.8cm]。まるで不思議の国に迷いこんだような終始夢見心地で独創的な英国フォーク。CD のみ別売されれば間違いなく当店ベスト・アルバム・クラス。w. Martin Simpson, Sam Sweeney, Ben Nicholls, Louis Campbell, Mary Hampton, Lucy Farrell 他。全 12 曲。2026 作。Hudson Records)
 「“Dominion Of Spells”は妖精の女王、セルキー、フクロウの女神に導かれ、リスナーを神話の世界へと誘う。そこでは苦難が変容へと繋がり、創造性と唄を通して驚きが見出される。本書には、CD と本作のダウンロード版に加え、歌詞、イラストそして本作のインスピレーションや制作に影響を与えた民話が収録」(Hudson Records)
 「英国のフォークミュージック界には数多くの SSW がいるが、ポートマンほど人間であることの意味を的確に表現できる人物は少な

い。“Dominion of Spells”は真に重要な作品であり、大切にされるべきものだ」[KLOF マガジン}。

[CD/ENGLAND]



(Magpie Arc 3EP)

- *MAGPIE ARC:EP1, EP2, EP3 D
(2022年のデビュー・アルバムの前に発売された Magpie Arc～Martin Simpson, Nancy Kerr, Findlay Napier, Alex Hunter, Tom A. Wright～のオリジナル・メンバーによる EP 三枚セット。各 4 曲の計 12 曲。Collective Perspective)
- *GRANNY'S ATTIC: Cold Blows The Wind D
(若手屈指のトラッド・シンガー、Cohen Braithwaite-Kilcoyne {ヴォーカル、メロディオン、コンサーティーナ} と、これまた若手屈指のトラッド・シンガー、George Sansome {ヴォーカル、ギター} にフィドル奏者の Lewis Wood を加えたトリオ“Granny's Attic”の 2025 年作。お祖母さんの屋根裏部屋？で見つけ出したお宝バラッドや伝統曲を生き活きと蘇生。ワンランク上の英国トラッド。Grimdon)
- *COHEN BRAITHWAITE-KILCOYNE: Rakes & Misfits D
(Granny's Attic のメンバーで、若手屈指のトラッド・シンガーでメロディオン&コンサーティーナ奏者、Cohen Braithwaite-Kilcoyne の 2020 年作。出版物や録音物などから Cohen が見つけ出した伝統曲やバラッド曲とオリジナル曲を英国トラッドの香り高い渾身のシンギングと演奏で披露する。趣味趣味かつ演唱のレベルが高い。感動の逸品。曲目解説付。「トニー・ローズやピーター・ベラミーを彷彿させる伝統的な歌への情熱」{Mojo より}。Grimdon)
- *GEORGE SANSOME & MATT QUINN: Sheffield Park D
(Granny's Attic の G. Sansome {ヴォーカル、ギター} と Dovetail Trio の M. Quinn {ヴォーカル、マンドリン} のデュオによる 2023 年作。若手トラッド・シンガーの二人が好きな伝統歌やバラッドを持ち寄って、趣味趣味で制作したのが本作。George のシンギングはソフトで気高く、Matt のシンギングは素朴で穏やか。そして小気味よいアコギとマンドリンの伴奏でうたわれるそれぞれのソロと二人によるデュエットの気品があって温かなこと！Produced by Tom A. Wright {Albion Band, Magpie Arc}。自然体で極上の男性トラッド・シンギング・アルバム。曲目データ付。Grimdon)
- *DAMIEN BARBER・MIKE WILSON: Under The Influence Z
(発掘 CD。Damien Barber {ヴォーカル、コンサーティーナ、ギター} と Mike Wilson {ヴォーカル} の二人のトラッド・シンガーによる 1970 年代英国トラッドの名盤を思い起こさせる英国トラッドの快作。Peter Bellamy “On Board A 98” と “Down The Moor”, Dick Gaughan の “The Green Linnet” と “Now Westlin' Winds”

そして Ewan MacColl “The Joy Of Living” と “My Old Man” のほか全 12 曲。「二人は何よりもまずシンガーであり、歌への情熱がアルバム全体を通して輝いている。素晴らしい歌声、素晴らしいアレンジ、素晴らしい楽曲。非常に優れたアルバムだ」[Living Tradition]。尚、ブックレットには二人がトラッドと出会った経緯が長々と記されている。2009 作。Demon Barber Sounds)

*JON BODEN & THE REMNANT KINGS: Parlour Ballads C

(Jon Boden の新作はビクトリア朝時代に全盛期を迎えたパーラー・ソング [バラッド] をタイトルしたアルバム。フォーク・ソングとしてピアノを奏で、やや感傷的に朗々とうたう。感動はジャンルを超える。Produced by Andy Bell。11 曲。2024 作。Hudson)

*JON BODEN: Songs From The Floodplain A

(デラックス・エディション限定盤。2009 作。Navigator)

*CHRIS MANNERS

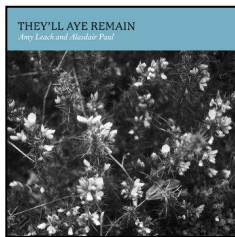
: Bar Doors And Bang The Shutters Down C

(英国の SSW でギター奏者の Chris Manner の四枚目。1970 年代以降数多くのギター弾き語りのフォーク・シンガーが産声を上げ、20 世紀後半の英国フォーク・シーンを盛り上げてきたが、彼のシンギングとギターはその時代の英国フォークの味わいと魅力を律儀に保持していて、時代錯誤感に襲われる。独自のフォークを英国フォーク的に気高く美しく花開かせている。15 曲。ゲスト: Jon Loomes。2024 作。99YRCD04)

*THE ROSIE HOOD BAND: A Seed Of Gold C

(偽りの愛の物語 “The Swallow” で幕開けする Rosie Hood Band ~ Rosie Hood [ヴォーカル、ギター、ウクレレ、フィドル]、Nicola Beazley [フィドル、ヴォーカル]、Rosie Butler-Hall [フィドル、ヴォーカル]、Robyn Wallace [メイプル、パーカッション、ヴォーカル] ~ の新作はイングランドの美しき女性トラッド・シンガー・アルバムの魅力に充ち満ちていて、心奪われる。2023 作。Little Red)

[CD/SCOTLAND]



(Amy & Alasdair)

*AMY LEACH AND ALASDAIR PAUL: They'll Aye Remain E

(世間から 1 週間離れ、南ラナークシャーの静かな環境でこれらの歌を録音したという Amy Leach [ヴォーカル、ピアノ] & Alasdair Paul [各種ギター、ヴォーカル] のデビュー・アルバム。今の時代に、伝統的な歌唱法を受け継ぐ素朴なトラッド・アルバムは期待出来ないだろうと思っていたが、本作はその危惧をスカッと裏切ってくれた。スコットランドの伝統歌の数々を Amy はスコットランドの伝統的な歌唱法でその味わいを濃く保持しながらシンギングし、数曲では Alasdair が同様のシンギングでハモる。Alasdair の英国調のギターの伴奏も光る。トラヴェラーでトラッド・シンガーの Lucy Stewart は「古き歌は永遠に残るでしょう。」

なぜならそれらは美しく賢明だから」と語ったが、Amy & Alasdair はその言葉を紹介し「私たちはこれらの歌のほんの一部をうたえることを嬉しく思う」とブックレットに記している。本作のプロデュースを手がけた Rachel Newton が二曲で Amy とデュエット。スコティッシュ・トラッドの快作。歌詞と曲目データ付。全 12 曲。2026 作。Amy Leach and Alasdair)

*CALUM MARTIN:An Dealachadh

Z

(発掘 CD。スコットランドのゲール語 SSW の Calum Martin の 2010 年作。ヘブリディーズ諸島ルイス島出身の Calum は 4 歳から日々の礼拝でゲール語の賛美歌をうたっていたという。本作では Royal National Mod の“Gaelic Song”部門で金賞受賞の Isobel Ann [クレジットでは Martin の姓を省かれている] が大半の曲でソロ & バッキング・ヴォーカルで参加。本作はトラッド調からフォーク調そしてフォーク・ロック調と音楽性の幅が広い。唄はゲール語と英語混在で、ゲール後の唄はゲール後歌詞に英訳が付いている。Ridge)

*ANDREW WARREN:The Power and the Passion

Y

(発掘 CD。ピアノアコーディオン、ハイランドバグパイプ、スコティッシュ・スモールパイプをフィーチャーした琴線に触れるスコティッシュ・ミュージック。「曲のほとんどは Andrew Warren よって作曲・編曲されています。この CD の副題は“Contemporary Accordion & Pipe Music”ですが、彼は自身の音楽的ルーツを見失うことなく、スコットランド音楽の本質に新鮮さと軽快さをもたらしています。ミュージシャンたちは息がぴったりでアレンジも素晴らしいので、注意深く聴く人は聴くたびに新しい刺激的な何かに出会うでしょう。非常に賞賛に値する作品です」 [Living Tradition]。2004 作。Shielburn Associates)

*CHRISTINE KYDD:Dark Pearls

A

(発掘 CD。スコットランド発女性トラッド・アルバムの名盤。自身が爪弾くギターと終始ハーモニー・ヴォーカルで寄り添う Lorraine Jordan が奏でるブズーキの伴奏で毅然とまた軽やかにシンギングする Christine のシンギングの何と魅力的で素晴らしいこと！Lorraine との無伴奏デュエットを間に挟みながらの曲編成だが、この組み合わせが実に見事で双方のスタイルによるスコットランドのトラッド {バラッドと伝統歌} のピュアな味わいと魅力が味わえるアルバムになっている。選曲は Jeannie Robertson や Liggie Higgings や Sheila Stewart 等のほか主に先輩トラッド・シンガーから学んだバラッドと伝統歌。聴き逃していたトラッド・ファン必聴。「スコットランド・フォーク・ミュージックの永遠の宝」 [Living Tradition]。1999 作。Culburnie)

*UP IN THE AIR:Moonshine

Z

(Up In The Air は、Old Blind Dogs の創設メンバーの二人の Jonny Hardie {フィドル、ギター、ヴォーカル} と Davy Gattnach {ハープ、ギター、ヴォーカル} に Iron Horse の Gavin Marwick {フィドル} のスーパー・トリオによる 2012 年のアルバム。スコティッシュ臭の強い Dave のシンギングが素晴らしく、全体として Old Blind Dogs の核の音楽的な印象で、琴線に触れる音楽を自在に創作している。

Up In The Air)

*COAST:The Turning Stone

Z

(Runrig クラスのフォークロック・バンド。Paul Eastham のヴォ

ーカルも抜群。ゲスト:Duncan Chisholm, 2011 作。Ruabhal)

[CD/WALES]

*RAG FOUNDATION:Minka

Y

(発掘CD。南ウェールズのスウォンジーの一姫二太郎の三人組、Rag Foundation~Neil Woollard{ヴォーカル}、Kate Ronconi-Woollard{フィドル、ヴォーカル}、Richard Cowell{ギター}~の1999年の一作目。曲目は英語とウェールズ語の伝統歌だが、Neilのヴォーカルは吟遊詩人風で独特な味わいで心に響き、Richardのブリティッシュ・スタイルの端正で美しいギターとKateの素朴で詩情感あるフィドルは独自の不思議感のあるブリティッシュ・フォーク風フォークを創作。ヴォーカル・ウィズ・ギター&フィドルの一体感あるサウンドも新鮮。Kateが唯一ヴォーカルを取る“Green Bushes”曲は70年代不思議ブリティッシュ・フォークの色彩が濃い。ゲスト:Andy Cutting, Nigel Eaton, Julie Murphy, Ceri Rhys Matthews, Fflach)

[CD/IRELAND 系]



(Mike, John, John)

(Barry Kerr)

デジパック・タイプを含め、元々開封されているものが多数あります。

*MIKE MCGOLDRICK, JOHN McCUSKER, JOHN DOYLE

:Between The Mountain And Sea

G

(M. McGoldrick{フルート、イリアンパイプス、ヴォーカル}, J. McCusker{フィドル、ヴォーカル他}, J. Doyle{ヴォーカル、ギター他}のトリオによる新作。トリオでライブ活動を始めて何年になるだろうか。三人全員それぞれがアイリッシュやスコティッシュの熟達した音楽家であることは周知の事実。その三人による多彩に響き合うアイリッシュ・スタイル・ミュージック、加えてJohn Doyleの円やかなシンギングとMikeとJohnの息の合ったハーモニー・ヴォーカル等、正に阿吽の呼吸による演唱は実に心地よい。パッケージは開封簡易収納ジャケット仕様と手抜きだが、音楽は絶品。全10トラック{26曲}。2026作。Under One Sky)

*MIKE MCGOLDRICK & DEZI DONNELLY:Dog In The Fog C

(2018作。Boxroom Music)

*BARRY KERR:Curlew's Cry

D

(アーマー出身でコネマラを拠点に活動するフォーク・シンガー、Barry Kerrの2025年作。Dick Gaughanの唄を聴いて夢中になったという“The Snow They Melt The Soonest”とAndy Irvineの名唱で有名な“Rambling Boys Of Pleasure”のトラッド曲2曲に自作曲6曲、Cathy Jordanとの共作1曲、SSW&ギタリストで元Patrick StreetのGerry O'Beirne作1曲の計10曲。本作はパレスチナの人々や世界の境界で生きる人々に捧げた唄や自然

破壊 [Barry は「千鳥は巣を作らず、ダイシャクシギの鳴き声は今やただの思い出に過ぎない」とうたう] を嘆く唄など社会的なメッセージ性のある唄を含むが、創作された音楽は穏やかで、むしろ哀悼歌のようなもの悲しさが漂っていて、彼の優しさが心の奥底にまで響く。彼の魂をこめた唄は Andy Irvine や Dick Gaughan 風節回しでもあるが、Barry の眼差しは全てに優しく、終始穏やか。Dervish の Cathy Jordan や Lamiere の Pauline Scanlon のハーモニー・ヴォーカルに加え、Gerry O' Beirne の繊細で多彩な各種ギターが Barry の唄の味わい深いものにしていく。ちなみにアルバム・タイトルのダイシャクシギという鳥は、アイルランドでは深い象徴的な意味を持ち、しばしば吉兆や異世界と結びつけられてきたという。英国の音楽雑誌 Songlines で 2025 年の“Folk Album of the Year award”受賞。選者は聴く耳があるなあ。歌詞と曲の説明付。2025 作。Curley's Cry)

*CUAS: Cuas G

(Méabh Ní Bheaglaoich {ヴォーカル、アコ}, Nicole Ní Dhubhshláine {コンサーティナー、フルート}, Kyle Macaulay {ギター、ブズーキ}, Niamh Varian-Barry {ヴォーカル、フィドル他} から成るアイリッシュ・グループ。Méabh & Niamh の清楚なシンギングに加え、アイリッシュの躍動感に充ち満ちていて、大盛り上がり。2024 作。Cuas)

*CAITRIONA NI CHEANNABHAIN: Solos A

(発掘 CD。トラッド・シンガーの Michael Mháire Ghabha ó Ceannabháin の娘でシャンノース・シンガーの Caitríona の 2011 年のソロ。幼い頃からコンテストに出場し、数々の賞を受賞。父親を記念したフェスティバルでは審査員長、内外のコンテストでは審査員を務めているという。流石に唄は上手い。ゲール語と英語の唄、トラッドと Mick Hanley のような SSW の唄を織り交ぜ、見事なシャンノースを聴かせる一方で、アイリッシュ・カントリーとでも言うか、アイリッシュとアメリカのカントリーとを混ぜたようなシンギングと音楽性のあるフォークを創作。硬質な唄の響きと節回しは Dolores Keane を想起させもする。w. Pat Coyne, Sean Keane, David Doocey, Stephen Doherty, Peter Gannon 他。Caitríona Ní Cheannabháin)

*O' STRAVAGANZA: O' stravaganza Z

(発掘 CD。Nollaig Casey, Emer Mayock, Ronan Le Bars, Robert Harris, Brenda Mayock 等のアイリッシュ・ミュージシャンと Myrdhin, Isobelle Oliver のフランスのケルティック・ハープ奏者がバロック楽団と共演したバロック風アイリッシュ。これが結構面白い。リバーダンスの音楽のような醍醐味。Produced by Hughes De Courson & Youenn Le Berre。2001 作。EMI)

*ALAN BURKE: On The Other Hand Z

(発掘 CD。リリース時ダブリンを拠点に活動していたフォーク & トラッド・シンガーでギター奏者の Alan Burke の 1997 年作。アイルランドのトラッド曲を中心に Richard Thompson や Tim Woods それに自作曲を含む本作は Alan の伸びやかなヴォーカルと Alan の英国トラッド調のギターが魅力的で、かつ英国トラッドとアイリッシュ・トラッドが自然にブレンドされた音楽が魅力的。アイリッシュ・ファンのみならず、ブリティッシュ・フォーク・ファンにもお薦め。w. Dezi Donnelly {フィドル}, Francis

McIlduff {イリアンパイプス、ローホイッスル}, John Harris
{エレキギター}。Gurug)

- *MICK MULVEY & SHANE MEEHAN: The Missing Guest E
(フルートとフィドルの演奏において、北コナハトの名手達の演奏を彷彿させるフルートとフィドルによる最高レベルのアイリッシュ・ミュージック。ゲスト: John Blake, Joe Kennedy, Matt Mulvey。10年以上の共演経験を経て創作された至福の全15トラック {42曲}。2025作。(Coolathma CD3)
- *MICHELLE MULCAHY: Lady On The Island E
(再入荷。2022作。Michelle Mulcahy)
- *DAIRE BRACKEN & LORCAN MacMATHUNA: Preab Meadar B
(ゲール語シンガーのLorcan MacMathunaとSlideの創設メンバーで元DanuのフィドラーのDaire Brackenのデュオ・アルバム。本作は600年から1600年のゲール語の詩を源泉とした自作曲とその時代の詩に曲を付けたもので、Lorcanシンギングやリルティングは過去に生きた人びとの魂の歌声にも聞こえる。また相方Daireの演奏は唄の伴奏を超えた即興的演奏で、響き合っていて、感動的。2014作。DBLM01)
- *ELIXIR: Elixir C
(録音は1983年10月と1984年3月。本作はブルターニュのシンガーでティンホイッスル、フルート奏者のPol Hueliouの呼びかけで集まったミュージシャンによるセッション・アルバム。集ったのはLiam Weldon {ヴァーナル}, Sean Howley {ブズーキ}, Brian O'Donoghue {ギター}, David Hopi Hopkins {ハウロン}の四名。呼びかけ人のPol Hueliouのティンホイッスルの演奏が素晴らしく、ブズーキ、ギター、パウロンの演奏も誘発されるように見事な演奏を繰り広げる。Liam Weldonの貴重シンギング二曲収録。1984年/2021作。Goasco Records)
- *PADDY KEENAN・TOMMY O' SULLIVAN Z
: The Long Grazing Acre
(Bothy Bandの創設メンバーでイリアンパイプ奏者のPaddy Keenanとギリスト兼シンガーのTommy O'Sullivanのコラボ・アルバム。2001作。Hot Conya)
- *3 TRIUR: Omos Y
(Peadar O Riada {コンサーティナ}, Caoimhin O Raghallaigh {ハルディングフェール}, Martin Hayes {フィドル}のスーパー・トリオ“3 Triur”の三枚目。全14トラック。2013作。Peadar O Riada)

[CD/FINLAND]



(Tuuletari)

- *TUULETARI: Maammo (Mother Earth) D
(数々の賞を受賞しているフィンランドの四人組女性フォーク・ヴォーカル・グループ“Tuuletari” {風の女神}の新作で三枚目。)

フィン・ウゴル系民族と北欧の民俗音楽からの影響を強く受けたという音楽は、前作“Rajatila/Borderline”同様、超フォーク的というかフォーク・レベルのヴォーカル・ミュージックを超えていて、本作は合唱スタイルのさらなる進化と深化を成し遂げている。圧巻！のひと言。「私たちの音楽には根源的なエネルギーと永遠性、故郷の村と広大な世界が常に共存してきました。言語、伝統そして自然への愛が私たちを支え、母なる地球を守る責任を思い出させてくれます。本作は架け橋を築くこと、壊れやすい環境、多様性そして何よりも希望への賛歌です」
{Tuuletar}。2026 作。Nordic Notes)

*EMMI KUITTINEN: Surun Synty C
(フィンランドのカレリア地方とイングリア地方の歌唱スタイルを専門とするトラッド・シンガーの Emmi Kuittinen の 2023 年作。フィンランド音楽賞の“Emma Gaala”で年間最優秀フォーク・アルバムにノミネートされたという本作。本作「悲しみの誕生」はフィンランドの民族楽器の素朴な響きと Emmi の悲哀感のあるシンギングは、本作のタイトルそのままの印象で、古き時代のフィンランドの家庭にタイムスリップしたかのよう。
Nordic Notes)

*SALAMAKENNEL: IV C
(1989 年、1990 年、1992 年に枚のアルバムをリリースした後にバンド活動を停止していた Salamakennel ~ Arto Järvelä {フィドル、マンドリン、ニッケルハープ}、Hannu Saha {カンテレ}、Kimmo Käsälä {ベース}、新加入の Antti Kettunen {アコギ、エレキ、ギター、ベース} の 30 数年振りの新作。メインは Arto Järvelä。Arto はフィンランドの伝統的フィドル音楽を愛しむように演奏し、共演メンバーが響演するスタイルで、カンテレの大家 Hannu Saha のカンテレと Antti Kettunen のギターが爽やかさを添えている。ゲスト: JPP, Jonna Tervomaa {ヴォーカル}。2024 作。Bafe's Factory)

[CD/NORWAY {SSW}]



(Jani Habel)

*JUNI HABEL: Evergreen In Your Mind C
(ノルウエーの SSW, Juni Habel の三年振りの新作で通算 3 枚目。前作“Carvings”は静かな衝撃作だったが、さざなみのよう心地よいギターの色と物静かで夢見心地な彼女の唄は本作でも健在。「グルーヴ感をより重視した」「遊び心も取り入れた」との本人の言葉通り、彼女の夢想的な世界はさらに深みを感じさせる。彼女の SSW としてのピュアなオリジナリティーは Chris Brain や Ned Doberts と肩を並べる。クレジットには 6 人もの演奏家の名前が記されているが、アルバムを通じた印象は「ソロ・アルバム」だ。ジャケットを開けばノルウエーの荒涼とした風景。「Nick Drake, Karen Dalton, Neil Young のファンなら、暖炉のそばでー

人で過ごす夜のようなこの音楽作品を大いに楽しめるだろう」
{The Times}。2026 作。Basin Rock)

[CD/NORWAY]

- *TRITULEN: Tritulén B
(Tritulén は Ebba Jacobsson がヴォーカルの女性 2 名と男性 1 名の
トラッド・グループ。ノルウェー西海岸の伝統曲を中心にした選
曲で、Ebba のシンギングもフィドル、ギター、アコの演奏も極北
トラッドの薫りを発するが、ストイックな極北性ではなく、穏や
かで牧歌的な極北性。Ebba のシンギングは新緑の森の中を口ず
さみ散歩するような爽快気分のシンギング。2012 作。
Etnisk Musikkklubb)
- *SIGRID MOLDESTAD: Sandkorn Z
(ノルウェーを代表する女性フォーク・シンガーの Sigrid の本作は
スコットランドの Robert Burns 作の名曲 3 曲と伝統歌 2 曲と残り
は Sigrid の自作曲という曲目で、自身が奏でるハルディングフェ
ーレ等がノルウェーのトラッドの薫りを撒き散らす中、Sigrid の
軽やかな節回しの唄は北欧風味を薫らせ、詩情豊かで美しい。
2010 作。Heilo)

[CD/DENMARK {Irish}]

- *DRONES & BELLOWS: The Dancing Dog Z
(発掘 CD。Drones & Bellows はデンマーク人 2 名、ドイツ人 2 名、
スコットランド人 1 名から成るトラッド・グループ。メンバーの
自作曲が多いが、音楽はアイリッシュ調やスコティッシュ調そ
してヨーロッパ・バロック調の優美な曲調等で、男女のヴォーカ
ルを含め、ケルティック+ヨーロッパ調のほんわかなモザイク
音楽。ゲスト: Brian McNeill {曲も提供}。曲の説明と歌詞付。
2006 作。Go')
- *BONEZONE: In Session Z
(発掘 CD。2002 年、米国で開かれたコンテストのボーンズ部門世
界チャンピオンの Yiridy Machar {ヴォーカル、ボーンズ、スプー
ン} の元に集まってアイリッシュ・セッションしたアイリッシュ
仲間による 2007 年作。当時デンマークのシーランドという島の
森の中で暮らしていたという Yiridy はボーンズの超絶演奏を買
われ、Phil Cunningham & Aly Bain や Dubliners や Dervish 等の
コンサートにゲスト出演。ボーンズをフィーチャーした森の中?
でのアイリッシュはセッションの楽しさ充滿。アイリッシュ・
ファンのみならずみんな笑顔。Go')

[CD/LATVIA]



(Rahu The Fool)

- *RAHU THE FOOL: On The Dancefloor D

(一人抜けて二姫二太郎の四人組の Rahu The Fool~Pēteris Narubins{ヴォーカル、マンドリン、ストンプボックス}、Lauma Bērza{ヴァイオリン、ヴォーカル}、Ben W. Goldsmith{サククス、ウクレレ、ヴォーカル}、Evita Bambane{ダブルベース、ヴォーカル}~の新作はライブ・アルバム。彼らの音楽は彼らの言葉を借りれば「ジャグバンドの伝統に根ざし、アコースティック・サウンド、遊び心あふれる精神、ダンサブルな音楽とラトビア国内外の伝統的なダンス曲や冒険的なバラッドやオリジナル曲を融合」した音楽。彼らの米国のジャグバンドやブルースやジャズやカントリーとラトビア内外のトラッド&ダンス・サウンドとをまぜこぜにした音楽は彼ら独自の大衆音楽レベルの異種交配娯楽音楽を創作してメチャ楽しい。ワクワクな全 13 曲。2026 作。CPL-Music)

[CD/France]

- *PICOTAGE: Noel Nouveau Est Venu B
(発掘 CD。「フランス中部のレパートリーを専門とするこのグループの 2 作目。この CD にはオーヴェージュやベリーなどの地方の伝統から生まれたクリスマスを中心にした歌曲やアリアが収録されています。クリスマスの歌の解釈は Gloria Moretti の力強い歌声に託され、ハーディガーディ、バグパイプ、ダブルリード、キーボードの伴奏が響き渡ります」[Radiomusc]。Gloria Moretti のシンギングが素晴らしい上に、フレンチ・トラッド・サウンドも極上。2000 作。FolkClub Ethnosuoni)
- *GAYANE: He Brings You Flowers Y
(ブルターニュの歌姫 Gayane の 2006 年作。13 曲中 10 曲は英語で[ラストの仏語の歌は英語による 1 曲目の仏語がア・ジ・ョ]、英国の夢心的な不思議女性 SSW 的。夢のような世界をきらめきのあるアコースティック・サウンド~フォーク・ロックで、Gayane らしい美意識の中で表現しきっている。2006 作。Keltia Musique)

[CD/ASTURIES]

- *DRD: Namai B
(発掘 CD。スペイン・アストゥーリアスの三人組“DRD”{楽器編成は木製フルート各種フィドル、ギター、ブズーキ。それにヴォーカル}の 2005 年作。かれらはアストゥーリアスの伝統音楽をケルティックな音楽センスと演奏で当時最前線のケルティック・トラッドを体現。Doifu R. Fernandez のシンギングを含め、彼らのアストゥーリアス風ケルティック・トラッドの何と素晴らしいこと! Fonn Astur)

[CD/ITALY]

- *BELLI TAMBURI: Dana E Ridanza A
(発掘 CD。「Antonio Brun はパーカッショニスト兼ドラマーの弟 Giorgio Bruno とサクスの Tonino Panico、オルガン、メロトロン、シンセの Peppe Rinald とピアノの Siro Scena といったカンパニア州出身のミュージシャンからなるグループ“Belli Tamburi”と共に魅力的で刺激的なアルバムを発表。そのサウンドは地中海の風味、特にナポリの伝統を体現し、「ナポリの力」を包含しながら、カラブリア

からサレントに至る南部の幅広い民族音楽の影響も取り入れています。これらすべてにジャズの雰囲気が一貫して漂い、魅惑的な魅力、神秘性、そして優雅さをサウンドに吹き込んでいます。卓越した才能を持つミュージシャンたちによる演奏は、最高品質のアルバムです」[Radiocoop]。2007作。Look Studio)

*MARCELLO: Filuzi - Balli Bolognesi Y
(発掘CD。アコーディオン奏者の Marco Marchello の演奏とグループ演奏による祖父母の時代の古き良きアコーディオン音楽【イタリアン・ミュゼット】の世界。ワルツ、マズルカ、ポルカ、タンゴ) 2012作。Tasa Dancer)

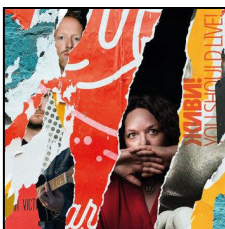
[CD/CZECH]



(Barbora Xu)

*BARBORA XU: The Garden Of Otava D
(チェコの女性SSWで、ハープ、カンテレ、中国の伝統楽器の古箏等の演奏家、Barbora Xuの新作で、通算二枚目。本作はBarboraが7年間暮らしたフィンランドのオタヴァ島にある人里離れたログキャビンで制作されたという。ハープ、カンテレ、古箏を爪弾きながらうたうBarboraはまるでフィンランドの森の精。森の不思議さや澄んだ空気感を内含した唄と伝統的な音色を秘めた音楽そして鳥の囁きは不思議な世界へと誘う。全てがピュアで音楽全体の鮮度が高い。滅多にお耳にかかれぬ精神性の高いマジカルな音楽だ。自己紹介、楽器解説、歌詞、曲目解説【英語・中国語】等付。真夏に清涼感を運んでくれそう。2025作。Nordic Notes)

[CD/UKRAINE]



(ЖИВИ!)

*ЖИВИ! (Mariana Sadovska & Vesna) D
: You Should Live!
(ウクライナのフォーク・シンガー、Mariana Sadovskaが仲間の音楽家達とVesnaを結成して活動を始めたのが、ウクライナ戦争が始まるひと月前。彼らはドイツに避難し、募金活動を組織し、難民を支援し、人道支援を調整する活動などを行っているという。本作はウクライナの伝承歌とウクライナの詩人の詩に主にMarianaが曲を付けた曲から構成されているが、Marianaは現代詩の中にウクライナの伝承歌と同ような「守護と癒しの力」を

感じたという。Mariana の念ずるような唄は音楽的にはサーミ
 {ラップランド}のヨイクのような印象だが、伝承歌やフォーク
 の域を超えて心に刺さる。土俗性を強烈に帯びた Mariana の唄
 は真にポジティブだ。音楽はジャンルを超えて柔軟で Mariana
 の渾身の唄と融合・一体化している。現代の“民族”音楽。歌詞原
 詩・歌詞英訳・曲目解説等付。2026 作。CPL-Music)

[CD/HUNGARY]

- *KOLINDA: Incantation D
 (Kolinda の 1997 年作。Pan)
 *KOLINDA: Forgotten Gods D
 (Kolinda の 2000 年作。女性シンガーの Kriszta Kováts を迎え、汎
 東欧～西アジア的悠久感のある Kolinda 流異種交配エキゾティ
 ック・ミュージックを創作。Pan)

★ ★ ★ ★
 S A L E 他
 ★ ★ ★ ★

※ほとんどが在庫 1～2 枚。検品してお送りします。

(CD/USA, Singer&Songwriter ほか)

- *BLUE JELLO: Life Is Good! Z
 (各種楽器奏者でシンガーの男二人組による人生が楽しくなる
 Good Songs & Good Music! 最高! 2008 作。bQuiet Music)
 *TOM ROZNOWSKI: A Well Traveled Porch Y
 (1999 作。Bell Buckle)
 *NATASHA BORZILOVA: Cheap Escape Y
 (2008 作。Hadley Music Group)
 *ELLIS HOOKS: Undeniable (2002 作。Zane) X

(サンプル CD/USA)

- *NEAL & LEANDRA: Accidental Dream Y
 (バーコードとブックレットに 5～6 ミリの穴の開いたほぼ新品
 のサンプル盤。1996 作。Red House)
 *MARK DVORAK: What A World World X
 (バーコードに 4～5 ミリの穴の開いた新品のサンプル盤。Produced
 by Lloyd Maines。2008 作。Waterbug)
 *ROGER CREAGER: Long Way To Mexico X
 (バーコードに 1 ミリの穴の開いた新品のサンプル盤。Produced
 by Lloyd Maines。2003 作。Dualtone)

(CD/USA {Trad 系})

- *MOIRA SMILEY: Rua Z
 *GABRIELLE ANGLIQUE: Dance With The Stars Y
 (2006 作。Fairy Tale)

(中古 CD/USA {Trad 系})

- *TIM ERIKSEN: Every Sound Below Z
 (ほぼ新品の中古盤。2004 作。Appleseed)

(CD/USA, BRITAIN, IRELAND {Trad 系})

- *SING CHRISTMAS AND THE TURN OF THE YEAR B
("The LIVE Christmas Day 1957 Broadcast BBC Radio".
Shirley Collins, Ewan MacColl, Seamus Ennis, Cyril Tawney,
A. L. Lloyd, Flora MacNeil, The McPeake, The Rakes 他。2000 作。
Rounder)

(CD/USA {Reggae})

- *JAH WORKS: Mystic Revelers E

(CD/CANADA)

- *GEOFF BERNER
: The Wedding Dance Of The Widow Bride X
(2007 作。Jericho Beach Music)

(サンプル CD/CANADA)

- *HEATHER DALE: The Road To Santiago X
(バーコードに 2 ミリの穴の開いた新品のサンプル盤。2005 作。
Amphisbaena Music)

(CD/CANADA {Celtic 系})

- *NORAH RENDELL & BRIAN MILLER
: Wait There Pretty One Z
(カナダの女性トラッド・シンガーで The Outside Track のシンガ
ーの Norah とギター奏者の Brian のデュオ・アルバム。推薦の言葉
: Daithi Sproule。Two Tap Music)

(CD/AUSTRALIA)

- *THE BUSHWACKERS: Juilee B
(オーストラリア・スタイルのフォークロック・バンド
"Bushwackers Band" の 25 周年記念ライブ盤。全 16 曲。フェアポー
ト・ファンにお薦め。1996 作。EMI)

(CD/UK)

- *MARTIN JENKINS: Nov Jhivot C
(ハンガリーのミュージシャンとの共演盤。東欧風味のブリティ
ッシュ・フォーク。1990 年～1994 年の録音でレコーディング・エ
ンジニアを Dick Gaughan と Geoff Heslop が担当。CD-R。検盤済。
1995 作。Black Crow)
- *PHILLIP GOODHAND-TAIT & THE STORMSVILLE SHAKERS
: Ricki-tick... 40 Years On Z
(2005 作。Span TV)
- *GORDON GILTRAP BAND: Airwaves Z
(2000 作。La CooKa Ratcha)

(サンプル CD/SCOTLAND)

- *LAU: Lightweights & Gentlemen Y
(バーコードに 6 ミリの穴の開いた新品のサンプル盤。2007 作。
Compass)

(CD/NORWAY, SWEDEN, FINLAND)

- *WIZARD WOMEN OF THE NORTH Y
(Tone Hulbaekmo{2曲}, Annbjorg Lien{2曲}, Aurora Borealis
{1曲}, Sinnikka Langeland{1曲}, Kirsten Braten Berg{1曲}等
のノルウェーのトラッド・シンガーやミュージシャンを中心に
スウェーデンの Susanne Rosenberg{2曲}とフィンランドの
Tallari{1曲}, Terru{1曲}を加えた全19トラック収録コンピレ
ーション。1998作。Heilo)

(中古 CD/NORWAY)

- *UTLA: Brodd X
(三箇所小さな圧迫痕あり。それ以外は新品同様。ゲスト: Berit
Opheim。1995作。NOR-CD)

(CD/GERMANY)

- *MIKE BROSINAN: Beneath Southland Skies Z
(2005作。Flying Kiwi Music)

(CD/BRETAGNE)

- *ANNES DE BRETAGNE E
(“Le Rock Opera D’Alan Simon”。二枚組。Fairport{4曲}, Cecile
Corbel{4曲}, Tri Yann{2曲}を含む全30曲。2009作。Babaika)
*ERIC MARCHAND: Unu Daou Tri Chtar Y
(w. Costica Olan, Jacky Moland, Viorel Tajkuna。2006作。Innacor)

(CD/SPAIN)

- *CALIU: Punt I Seguit(2010作。Blau) Z

(CD/BULGARIA)

- *ブルガリア (25人の瞳) G
(国内盤。解説: 江波戸昭。盤は直輸入 Auvidis 盤“Le Chant Des
Femmes Bulgares”。1988作。ミュージック東京)

(CD/RUSSIA)

- *COSMONAUTIX: Energi ja(2011作。Piranha) Z

(CD/TURKEY)

- *KENAN KOCKAYA
: Songs And Dances From Turkey(1988作。ARC Music)Y

(CD/EGYPT)

- *YALLA “Hitlist Egypt”(1990作。Island/Mango) Z
*HUSSEIN EL MASRY: Raetak Z
(“Quintessential Pop Song From Cairo”。1992作。Erde)

(CD/TUNISIA)

- *FARID ELATRACHE: Archives Des Annees 30 Z
(1992作。Club Du Disque Arabe)
*SALIM HALARI: En Tunisie Z

(1990 作。Club Du Disque Arabe)

(CD/ZIMBABWE)

*OLIVER MUTUKUDZI:Ziwere MuKobenhavn Y
("African Township-Jive Trance Dance Music"1994。作。
Shava Musik)

(CD/MADAGASCAR)

*TARIKA SAMMY:Beneath Southern Skies A
(1996 作。Shanachie)

(CD/CAPE VERDE)

*CESARIA EVORA:Distino De Belita(1990 作。Lusafrica)C

(CD/SURINAM{南米})

*WILLIAM SOUVENIR:A Tin Tele(1994 作。MW) Z

(CD/Chile)

*VIOLETA PARRA
:Paroles & Musiques(1997 作。Last Call) D

(CD/Indonesia)

*ヘティ・クースエンダン:クロンチョン・ピリハン C
(国内盤。解説:田中政則。1991 作。ボンバ)

《堀田はりいの新刊》



◎堀田はりい著『新・卑弥呼物語—卑弥呼と壹與の女王国』◎
～伊都国王統の卑弥呼女王の生涯と
伊都国から大和国への遷都の物語～
(本体1350円【税込み1485円】(送料無料))

◎ご注文に本書が含まれている場合は送料無料です。

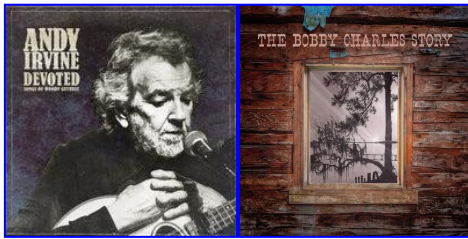
【読者から】

- 卑弥呼とそのまわりの人々、庶民の様子が生き生きと描写されていて感動いたしました。
- 卑弥呼の祭祀の場面やその他の場面で音が聞こえるようでした。
- 色んな場面で情景が浮かぶようでした。
- 卑弥呼にまつわる独自の学説や説得力のある時代考証等々、「そうかそうか」とうなづきながら一気に読了しました。
- 卑弥呼、壹與、神武天皇、魏の使者、張政の関係を興味深く読みました。
- 読み終わって幸せな気分になりました。

○中学の先生からは「読みやすかった。生徒にも薦めたい。自作は長編物を期待しています」

【販売予定のないLast Music Coの新譜予約受付】

※予約注文≠切り:下記発売予定日ひと月前。入荷次第発送。



(Andy Irvine)

(Bobby Charles)

*ANDY IRVINE:Devoted 送料・税込み¥7000
("Songs Of Woody Guthrie".二枚組LP.w. Donal Lunny, Bruce Molsky, Michael McGoldrick, John Doyle, Rens van der Zalm, Nikola Parov.現地 9/4 発売予定)

*BOBBY CHARLES:The Bobby Charles Story 送料・税込み¥15000
(7CD+1DVD [NTSC All regions]+本のセット。現地 10/2 発売予定)

※Andy IrvineとBobby Charlesの新譜の発売日はまだ先ですが、それまでに募集する機会があるかどうか分からないので、本通販リストにてお受けします。Andy IrvineのCDは通常リストで販売予定。



ジギタリスとプリペット（右）の花満開。
今、ミツバチとマルハナバチの楽園

ジギタリス拡大

ご注文は song@tambourine-japan.com 又は tambour@ya2.so-net.ne.jp (CC用) へ。
又は FAX:0977-84-5508 へ。

☆オマケ写真☆

今日(5/31)、娘が主宰するアイリッシュハーブ教室(湯布院教室)のミニ発表会を近所のカフェ NaNaNa 行いました。初夏のような陽気でした。



会場の NaNaNa。後方の山は由布岳



親子で習われている生徒さん